



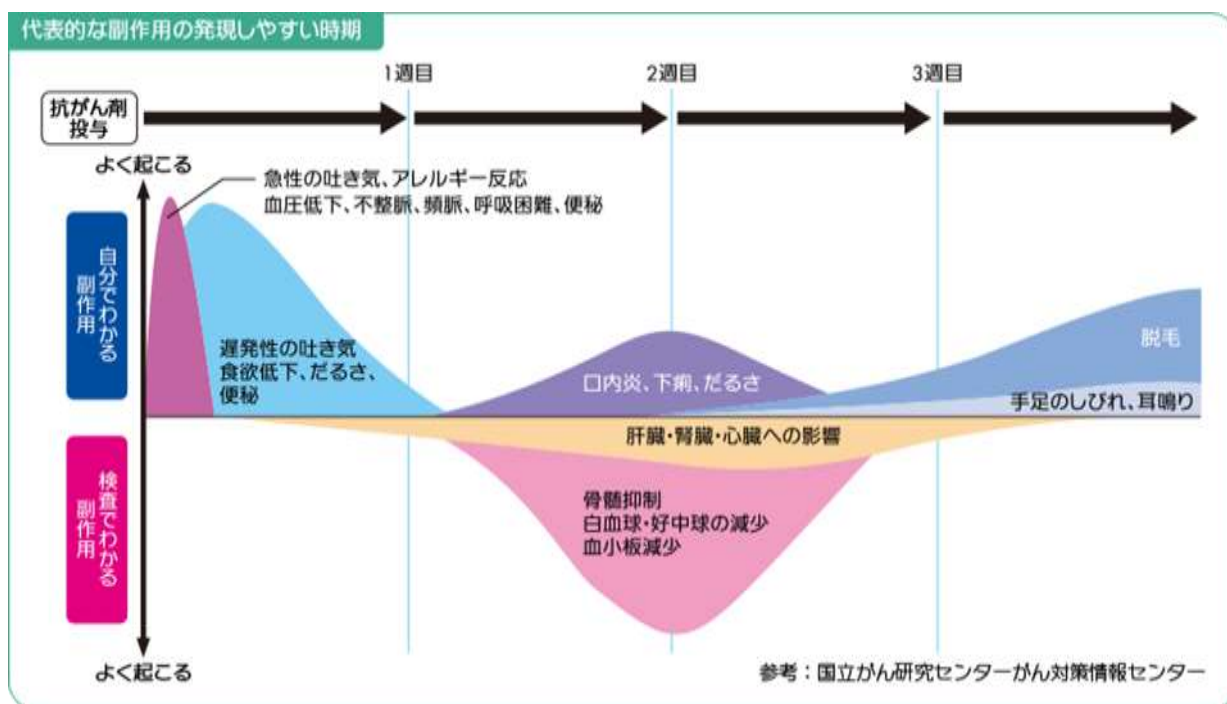
# 抗がん剤と副作用

薬剤科 薬剤師 鈴木拓也

今回は抗がん剤と副作用についてのお話です。ここ数ヶ月、芸能人が「がんの手術をした」「抗がん剤投与を行った」といった報道を耳にされた方も多いのではないかと思います。がん治療には大きく分けて「手術療法」「放射線療法」「薬物療法」の3つがあり、抗がん剤を投与するものが薬物療法となります。抗がん剤というとゲーゲー吐く、髪が抜ける、非常に強い副作用で体が弱る・・・といったイメージがあり漠然とした不安を持つ方もいるかもしれません。どれもTVドラマでは定番の描写です。もちろん、何の副作用対策もとらずに治療に臨めば薬剤によってはそのようなことも起こりえるでしょうし、場合によっては予防が困難なものもあります。

しかし、抗がん剤の開発が進むと同時に副作用対策の薬剤も開発されてきました。例えば、吐気・嘔吐対策では1990年代にセロトニン受容体拮抗薬、2000年代には長時間作用するセロトニン受容体拮抗薬、ニューロキニン1受容体拮抗薬といった薬剤の登場により嘔吐の確率はずいぶんと減っています。

また多くの副作用は発現時期の予測が可能であり、その予測に基づいて対策を講じることができる場合もあります（下図）。



いつ、どのような副作用が、どの程度起こり、いつまで続くのかといったことが少しでも予測できれば漠然とした不安も軽減できるのではないのでしょうか。私たち薬剤師は少しでも不安が解消されるように薬剤の情報提供を行い、副作用の程度がより軽くなるよう対策を講じることで安心して治療を受けられるよう患者さんとそのご家族をサポートしたいと思っています。お聞きになりたいこと、困ったことがあればいつでもご相談下さい。